

月刊ウィーン

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊平成元年 創刊27年目
創刊1989年 Nr.317

GEKKAN-WIEN 2015年11月号



August Macke (1887-1914) "Helle Frauen vor dem Hutladen" 1913 Öl auf Leinwand 110 x 76,5 cm Courtesy of Osthaus Museum Hagen & Institut für Kultur Austausch, Tübingen

レオポルト美術館 Leopold Museum 企画展『色彩のひしめき ドイツ表現主義の名作 FARBENRAUSCH Meisterwerke des deutschen Expressionismus』にて展示

アウグスト・マッケ (二八七年一月三日ドイツ西部メシエ生まれ〜一九一四年九月二六日西部戦線シャンパーニュの前線で戦死)

『帽子屋の前の色白の婦人たち』一九一三年



杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 50



十月二日午後、パリに本部がある経済協力開発機構／原子力機関（OECD／NEA）のマグウッド事務局長が京都大学桂キャンパスを訪問された。彼は、二〇〇五年まで七年間務めた米国エネルギー省の原子力局長として、第四世代原子炉の国際共同研究開発などの大型プロジェクトを強力に進めた実績を持つ。また、二〇一〇年から四年間務めた米国原子力規制委員会委員として、規制の独立と強化に尽力するとともに、福島原子力発電所事故では米国の専門家を日本に長期派遣するなどのご支援をいただいた。今回、四日（六日）にかけて京都で開催され、安倍首相も演説した「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」で講演するのに併せて、原子力について学生と対話することを第一の目的として京都大学を訪問されたものである。



最初の学生十五名との昼食会では、研究や将来の就職などについて二時間近く学生二人ずつとリラックスした中で話に花が咲いた。また、原子核工学専攻の教官五名との会談では、研究や原子力教育についてかなり突っ込んだやりとりがあった。最後に学生と教官約四十名に対して「将来展望・原子力の課題とチャンス」と題する講演を二時間半行われた。質疑応答では、原子力政策、原子力技術などについて幅広く討論がなされた。筆者は文科省の依頼により、一連のイベントの幹事を務め、講演会では司会を務めた。福井工大から教授と学生が参加した他、京大吉田キャンパスからも文系を含む学生が参加した。国連事務総長や国際原子力機関（IAEA）事務局長と同格の国際機関トップと直接話をするのができ、学生や若手は得る所があったと思う。さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の都市ランキングについて述べてみたい。ニューヨークに本社がある国際的なコンサルティング会社マーサーの調査によれば、ウィーンは今年（二〇一五年）まで六年連続で世界で最も住みやすい都市のトップと評価されている。マーサー社は政治、社会、経済、さらに環境保護の観点から、また安全、健康、教育、交通の利便性など様々な基準を用いて評価している。同様の調査は他にもあ

り、英国の情報誌モノクルによれば、ウィーンは世界で最も住みやすい都市の昨年は六位、今年は二位を獲得している。この調査で京都は昨年は九位、今年は十四位であり、東京が昨年は二位、今年は三位を獲得している。一方、世界で最も影響力があると言われる米国の大手旅行雑誌「トラベル+レジャー」の読者投票による世界の人気観光都市ランキングでは、京都は昨年と今年の二年連続で二位に選出された。神社仏閣などの歴史的建造物から精進料理など洗練された料理、舞妓さんとの出会いなど、真の日本らしさが体験できることが評価された。京都は風景や文化・芸術、食事などの総合評価で二位、チャールストン、三位、カシオ・シエムリアップ、四位、フィレンツェ、五位、ローマを引き離し、一位の五位から順位を上げ、昨年、日本の都市では初めてトップに輝いた。ウィーンも京都も住みやすい国際観光都市として、世界のトップクラスにあることが共通している。



余談であるが、筆者はウィーン赴任中、水道水が直接飲め、美味しい食べ物や観光名所が豊富なることを実感していた。京都も学生時代から常々住みやすさを感じ、現在も観光名所をよく訪れている。両市に住む機会を得、都市ランキングを紹介できた幸運に感謝しつつ、IAEAの写真を掲載させていたたく。

■ 杉本純 京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長 ■